

◆ 生ごみ堆肥の作り方 ◆

成功の3つのポイント

1. 生ごみは完全に水分を切ってから入れること
2. ポカシは多めに入れましょう
3. フタをしっかりと閉めて空気を遮断しましょう

■ 用意するもの

- EM ポカシ
- 生ごみ
- 密閉バケツ



📌 ヒント

密閉バケツ(ポカシ容器)を2~3個用意すれば、連続して生ごみ処理をすることができます。

■ 作り方

- 1 初めてバケツに生ごみを入れるときは、目皿の上に新聞紙を敷き、EM ポカシをまきます。敷いた新聞紙が目詰まりを防ぎ、EM 生ごみ堆肥をこす役割もしてくれます。



- 2 生ごみと、ひと握りくらいの EM ポカシを入れます。生ごみは水分を十分に切って、その日のうちに EM ポカシと混ぜることがコツです。大きい生ごみは EM ポカシと混ぜやすいように細かくするといいです。魚類や水分の多いスイカなどの場合は EM ポカシを多めに入れましょう。



- 3 EM ポカシと生ごみを混ぜたら、上からギュッと押して空気を抜きます。古くなったしゃもじなどを使うと便利です。空気に触れない状態で発酵させますので、内部の空気を抜く必要があるためです。さらに、生ごみの上に中ブタか新聞紙・ビニールをおくと空気に触れにくくなります。あとは、フタをしっかりと閉めて密封してください。



- 4 EM 生ごみ発酵液を取り出します。
底にたまりますので、そのつど取り出し水で薄めて
液肥として使用してください。
1~4 の行程を繰り返し行い、容器一杯もしくは 8 分
目あたりまで続けます。



- 5 直射日光を避け、密封して 1 週間(冬季は 2 週間)
程度発酵させます。不快感のないニオイ(漬物のよ
うな)であれば成功です。(長く保管しておくとう腐敗す
るので、要注意)



■入れないで

- ・水切りをしていない生ごみ
- ・腐敗した生ごみ
- ・ペットのふん
- ・タバコの吸いがら
- ・つまようじ

■意外だけど OK

- ・塩分の多いもの
- ・卵のから、カニがら
(砕いたもの)